

Donald McDonald House Charities Japan Annual Report 2007

2007年 年間報告書





Letter from Mother

私たちを支えてくださっている皆さまへ

この一年あまり、とても長い、長い時間が過ぎていきました。娘の海は、2006年12月に生まれ、大半を病室で過ごしてきました。生まれてからなかなか黄疸が引かず気にしていましたが、一カ月後、すぐにも治療が必要とのことで、混乱したまま、地元、埼玉の病院で胆道の手術を行いました。さらに肝臓にも異常があり、移植手術が必要になることから、国立成育医療センターでの治療を進められたときに「マクドナルドハウス」のことを知りました。

私自身が海のためにドナーとなることを決めたものの、さまざまな不安を感じていました。ハウスのことを知り、少しだけ不安な気持ちが安らいだのもつかの間、その数日後には、海の容態が急変し、ドクターへ

りで東京の国立成育医療センターに搬送されました。ハウスに滞在している間、ドナーとなったご家族の方や、多くのボランティアの方に声をかけていただき、一人では耐えきれないような時間もなんとかやり過ごすことができました。不安で寝付けない時なども、図書室を利用したり、料理を作ることで気分転換ができ、ハウスならではの心づかいが、とってもありがたく思えました。幸い、海の容態も落ち着き、無事に移植手術を成功させることができました。

海には、3歳になる姉、空がいます。普段は海につきっきりで寂しい思いをさせていますが、夏には、ハウスと一緒に過ごすことができました。ハウスにいる



ほかの子どもたちとも遊び、空もとても楽しんでいたし、私自身も、家族で過ごす貴重な時間を過ごすことができました。

子どもの病気は、子どもにとっても、家族にとってもとても辛いものです。「なるべくそばにいてあげたい」「自分まで病気になってはいけない」などいろんな気持ちで不安になることも事実です。そんなときにハウスは「家にいる」のと同じ感覚で、子どものそばにすることができ、気持ちの面でも、経済的にも、私たち家族にとって大変心強い味方でした。「もし、ハウスがなかったら」と考えても、想像もつきません。

ハウスやボランティアの方の存在、病気と闘っているたくさん子どもたちがいること、いずれもこれまで私が生きてきた世界では、無縁のものでした。でも海の病気をきっかけに、「社会はいろいろな人たちが

助け合って生きている」ということに改めて気づくことができました。

ハウスの皆様、病院のスタッフの方々はじめ、多くの方のおかげで、海も元気になることができました。まだまだ引き続き治療が必要ですが、今ではとても前向きに考えることができます。今後は、ハウスの利用を望んでいるご家族や、ハウスのことを知らないまま、病気と闘っている多くの方たちのために、自分たちができることも考えていきたいと思っています。

最後になりましたが、私たち家族を支えてくださっているハウスの関係者の皆様、そして寄付など善意をいただいた多くの方々に改めて感謝いたします。本当にありがとうございます。

2008年3月

平出真琴



INDEX

目次

-
- | | |
|---|--|
| 1 | Letter from Mother 私たちを支えてくださっている皆さまへ |
|---|--|
-
- | | |
|---|--------------------------------------|
| 4 | 財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンについて |
|---|--------------------------------------|
-
- | | |
|---|-----|
| 5 | ご挨拶 |
|---|-----|
-
- | | |
|---|---------|
| 9 | ハウス活動概要 |
|---|---------|
-
- | | |
|----|-------------|
| 15 | ご家族からのメッセージ |
|----|-------------|
-
- | | |
|----|------------|
| 17 | ボランティア普及活動 |
|----|------------|
-
- | | |
|----|-----------------------|
| 19 | 助成事業および国際交流、国内外研修派遣事業 |
|----|-----------------------|
-
- | | |
|----|---------------|
| 20 | 財団活動トピックス2007 |
|----|---------------|
-
- | | |
|----|----------|
| 30 | いろんなサポート |
|----|----------|
-
- | | |
|----|---------|
| 31 | 応援メッセージ |
|----|---------|
-
- | | |
|----|------|
| 33 | 決算報告 |
|----|------|
-
- | | |
|----|----------------|
| 36 | 役員・評議員・選考委員の紹介 |
|----|----------------|
-
- | | |
|----|---------|
| 37 | サポーター紹介 |
|----|---------|
-
-

Donald McDonald House Charities Japan

財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンについて

■財団設立の趣旨

現在、難病に苦しむ子どもの数は全国で20万人に及んでいます。言い換えると、難病の子どもを持つ家族はその数倍も存在することになります。これらの家族は、子どもが難病であるが故に自宅と入院先との二重生活による経済的な負担、家族が離れて暮らす不安等による精神的苦痛を感じています。

多数の個人、団体がこうした家族を支援すべく、難病の子どもとその家族のための宿泊施設を提供し、運営してきました。しかしながら、大都市周辺の宿泊施設の場合、病院から離れているところが多いことやボランティアの支援体制が諸外国のように十分出来ないなど、利便性の面でまだ多くの問題を抱えています。

そこで、この問題に適切に対処するための社会基盤と人的な教育の整備を図るために財団を設立しました。

私たち「財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン」は、ハウス建設および運営事業を中心にボランティアへの助成、国際交流などの活動に全力で取り組むとともに、社会全体で支援する仕組みづくりに寄与したいと念願しております。



■財団の概要

名 称：財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン

所 在 地：東京都新宿区西新宿6丁目5番1号 新宿アイランドタワー 39階

目 的：本財団は、難病およびその家族等を支援する福祉、医療分野等におけるボランティアへの助成並びにその家族等に対し必要な施設の設置等の措置を講じ、その有効適切な運営を行うこと等により、地域社会における支援体制の確立に寄与することを目的とする。

事 業：①難病児及びその家族等を支援する福祉、医療分野等におけるボランティアへの助成事業
②福祉、医療分野等におけるボランティアの国際交流、国内外研修にかかる助成事業
③前号におけるボランティア活動を振興するための普及啓発事業
④難病児及びその家族等のための滞在施設の設置、運営及び助成
⑤その他前条の目的を達成するために必要と認める事業

設 立：平成11年4月1日

主務官庁：厚生労働省

Message

ご挨拶



財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン
理事長 開原成允

Chairman, Donald McDonald House Charities Japan
Shigekoto Kaihara

米国でドナルド・マクドナルド・ハウスの活動が始まって以来34年が経ちました。今では世界中に275のハウスと123のファミリールームが入院中のお子さんとそのご家族を支えています。皆様ご存知の通り、わが国の小児医療の環境は厳しいものがあり、今後ますます小児医療の医療圏は広がることが予想され、それに伴い遠隔地からの入院を余儀なくされる事態が増大します。それを支えるのが『ドナルド・マクドナルド・ハウス』です。

日本では最初の「せたがやハウス」が難産の末生み出されてから6年間に5つのハウスが急ピッチで整備され、延べ9,000以上のご家族が利用されました。ハウスを整備しそれを運営していくには莫大な費用がかかります。個人からの浄財、マクドナルドの店舗内の募金箱に入れてくださる個人の善意、それに日本マクドナルド株式会社はじめ多くの企業からのご寄付、これらすべてのおかげでハウスは成り立っています。お蔭様でこの活動の認知度も年々上がり多くの方からのご支援を得られるようになりましたが、ハウスを必要とされている方々はまだまだたくさんあり、不断の活動を継続していかなければなりません。

ハウスを支えてくださっている皆様への感謝の気持ちを込め、また財団の活動を知っていただくため、このたび2007年の年間報告書を作成いたしました。今後とも病気のお子さんとそのご家族のために努力していく所存ですので、かわらぬご支援をいただきますようお願い申し上げます。

It has been 34 years since Ronald McDonald House started its operations in the US. Today, there are 275 Houses and 123 Family Rooms around the world serving ill children and their families. As you know, the environment surrounding pediatric medical care in Japan faces many challenges. In the future, there will be more children who will be hospitalized in institutions distant from their homes as the pediatric medical zone is expected to expand further. Donald McDonald House is here to support these children and their families.

After the establishment and challenging start of Japan's first "Setagaya House" 6 years ago, 5 new houses had been constructed at a very fast pace, which have now served over 9,000 families in total. Vast expenses are required to maintain and operate these houses. The many donations from various companies (including McDonald's Japan), individual contributors, and customers who give to the donation boxes in McDonald's outlets nationwide help keep the houses operating. This support helped raise awareness of DMHC activities over the years, and gain further support from many people. However, since there are still many people out there who need our service, we must continue our efforts in promoting these activities.

The 2007 annual report was created in order to share the group's activities and express our gratitude to all who supported the house. We will continue to support seriously ill children and their families, and in this mission we humbly ask for your continued support.



財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン
専務理事 廣瀬 修

Chief Executive Director, Donald McDonald House Charities Japan
Osamu Hirose

私 は仕事で米国に長期間滞在していましたが、米国では法人でも個人でも 地域活動に貢献するということが非常に日常的に行われています。それを目の当たりに経験した私は、帰国後はボーイスカウト日本連盟や長崎県児童養護施設協議会へのご支援、さらに社会福祉協議会や文化芸術活動への支援などを通して、数多くの子どもの育成活動にかかわって参りました。

このドナルド・マクドナルド・ハウスの活動もまさに私の個人的理念に合致したものであります。誰でもが将来を担う子ども達が健康で健やかに成長することを望みますが、不幸にして病気を患ったお子さんが沢山存在することも事実です。そのお子さんとご家族を「自分のできる範囲」で支援していくことは素晴らしいことです。ドナルド・マクドナルド・ハウスのすぐれた点は世界的に一つのコンセプトで運営しているということで、世界中のすべてのハウスが同一の理念を持ち地域の方々の協力のもと、多くのご家族を支えています。その根幹をなすものが、ハウスを建設、運営していく上で不可欠なご寄付と運営にご協力いただくボランティアの力です。その2つが大きくハウスの事業を育てます。日本にもまだまだハウスを必要としているお子さんとご家族がおります。今まで支えていただいた多くの企業や個人の方々に心からの感謝を申し上げるとともに、更なる広がり構築していきたいと願っております。

I worked in the United States for a long period of time. While I was there, I noticed that both corporations and individuals participate in community activities, and this made a big impact on me. So, after returning to Japan, I got involved in many various child foster care programs, including the Boy Scouts Association of Japan, the association of nursing home for children in Nagasaki, social welfare and cultural activities.

The Donald McDonald House Charities perfectly matches with my own philosophy. We all wish that children, who are our future, will stay healthy and grow happily, but sadly, many of them are ill. How wonderful it is then, to support such ill children and their family by 'doing what I can'. An outstanding thing about the Donald McDonald House Charities is they have the same management concept on a global scale; all of them have the same philosophy, supporting thousands of families with the help from the local community. Two elements are essential to Donald McDonald House Charities; fund-raising and volunteers that build, operate and support the day-to-day running of the House. Fund-raising and volunteers make the Donald McDonald House Charities grow. In Japan, many children and families need a place, yes a place like the Donald McDonald House. I would like to express my deepest gratitude to all the companies and individuals that supported us. I truly hope to continue expanding our activity further in the future.



財団法人休暇村協会理事長 前環境省事務次官
炭谷 茂

Former Vice Minister of Environment
The Head of National Park Resort Villages Foundation
Shigeru Sumitani

私が、厚生省国立病院部長（当時）として仕事をしていた12年前、現在財団の理事長をされている開原成允先生が訪ねてこられました。聞けば、世界各国にあるドナルド・マクドナルド・ハウスを日本にもぜひ作りたいたのことでした。海外のハウスの活動状況を知っていた私は、もろ手を挙げて賛成しました。

その後の開原先生を始め関係者の財団設立に向けてのご苦労は大変でした。一年後厚生省社会・援護局長に異動した私は、社会・援護局で財団許可事務を扱うことにし、ご縁は深まっていきました。

ハウスは、現在5つ設置され、難病に苦しむ子どもたちのため絶大な役割を果たしています。ドナルド・マクドナルド・ハウスは、それぞれ地元が運営の責任を持つ、利用者が日々の施設管理を直接行うなどの特色があります。これからの民間活動の一つの方向を示しています。

これからもドナルド・マクドナルド・ハウスは、医療、福祉、環境、文化などの要素を総合的に組み入れ、難病に苦しむ子ども達に希望の光を灯し続けて欲しいと思います。

Twelve years ago, when I was working as a manager in the National Hospital under Ministry of Health, Labor and Welfare, Dr. Shigekoto Kaihara, who is Chairman of Donald McDonald House Charities, visited me saying that he wants to build Donald McDonald House in Japan as well. I wholeheartedly agreed with him, since I was already aware of the activities of overseas Donald McDonald House Charities (DMHC).

Those who were involved in setting up the DMHC, including Dr. Kaihara, worked very hard to realize their goal. After a year, I was transferred to serve as the Head of Social Welfare and War Victims' Relief Bureau of the Ministry of Health, Labor, and Welfare, which became responsible for giving the approval of foundations. So my relationship with DMHC became closer.

Now in Japan, there are total of 5 Donald McDonald Houses, and all of them are playing a very important role in supporting children with sickness. Donald McDonald House has its own characteristics, such as running of the day-to-day operation done by local community, facility management done directly by users, etc. Donald McDonald House shows us in which way community activities should move ahead.

I sincerely hope that DMHC will continue to give rays of hope to children suffering with incurable diseases by incorporating various things, such as medical care, welfare, environment, and culture.



自治医科大学とちぎ子ども医療センター
センター長 桃井真里子

The Head of Center
Jichi Children's Medical Center Tochigi
Mariko Momoi

新しい形の小児医療体制として大学病院隣接型の子ども医療センター構想を栃木県と大学とで描き始めた時から、マクドナルドハウスに是非来て頂きたい、という強い願いがありました。企業が子どものためのチャリティー財団を支援し、病気と闘う子どもと家族のためのハウスを提供・運営する、その「心」こそ、小児医療に不可欠のもの、と考えていたからです。マクドナルドハウスは家族の滞在施設の提供だけではなく、貴方がたを社会は支援していますよ、という暖かい心のシンボルでもあります。大学構内の子ども医療センターに隣接してマクドナルドハウスがあり、ハウスによって、企業・財団・社会、ボランティアという多様な支援の顔が見えることは、子ども達と家族のみならず、大学にとっても新しい文化の導入でもありました。子ども達と家族への支援の形でこの栃木の地に新たなボランティアの文化が育ち、ハウスの活動に教えられながら、子ども医療センターでもボランティア活動が盛んになりました。感謝し感謝され、チャリティーという社会の品格が医療とともにあること、それこそが、マクドナルドハウスを願った理由ですが、それ以上のものが、今「とちぎハウス」に実現していることを、改めて深く感謝しています。

While I was working at Jichi Medical University, we started thinking of a new children's medical system. I wanted to build a children's medical center right next to the university hospital and I strongly wished that a Donald McDonald House could be built. The reason why I came up with this idea is that in order to take care of children's medical needs, we needed a 'heart'. We needed corporations to support charity foundations for children which offer/operate a house that provides for sick children and their families. Donald McDonald House offers more than a facility for families; it is a symbol of a warm heart, and this heart is saying 'the community is right behind you'. Next to the children's medical center, which is situated inside the university's property, a Donald McDonald House exists. Thanks to this House we see different 'supportive faces'; corporations, foundations, community, and volunteers. This setup brought a new culture to the university. Through the willing support toward sick children and their families, a volunteer spirit and culture started to grow in Tochigi prefecture, and as a result, many volunteers are now joining in the children's medical center as well. Giving and receiving appreciation...social dignity, a charity co-existing with medical care...the true reason why I wanted Donald McDonald House to come here was to make all of these experiences happen. Because of those experiences more than I ever expected is taking place in Donald McDonald House Tochigi, and I am truly grateful for this.



House Information

ハウス活動概要



Donald McDonald House Setagaya

ドナルド・マクドナルド・ハウス せたがや



■ハウス情報

住 所：〒157-0074
 東京都世田谷区大蔵2-10-10
 電 話：03-5494-5534
 F A X：03-3749-2267
 延べ床面積：1,744.29m²
 規 模：地上4階建て、地下1階
 ベッドルーム数：21室



■国立成育医療センター 血液腫瘍科 熊谷 昌明

マクドナルドハウスには私たちの小児がん患者さんが大勢お世話になっています。私たちは、闘病中でもできるだけ多くの時間をご家族と過ごしてほしいと考えていますが、お住まいが遠方であったり、病状が不安定な患者さんでは、ご自宅に帰るのが難しいことがあります。そのような患者さんでも、ハウスなら家族みんなと過ごすことができます。何か心配なことがあっても、すぐに病院に戻って対処することができるので、外泊する基準を下げることも可能です。それに、ホテルと違ってハウスではお母さん（お父さん？）の美味しいご飯を食べることができます。ハウスの皆様に心からお礼申し上げます。



■施設概要

2001年12月に誕生した国内第1号の「せたがやハウス」は国立成育医療センターに隣接して建てられました。小児ベッド数が460床ある国立成育医療センターには、全国各地から患者が入院または通院しています。

■2007年実績

利用家族数：614家族 総宿泊数：5,747泊
 平均滞在日数：9.3日
 ボランティア登録者数：172名

Donald McDonald House Setagaya



■収支報告 (単位：円)

収 入	
宿 泊 料	8,706,000
寄 付 金 収 入	1,257,829
会 費 収 入	1,336,000
そ の 他	106,428
財 団 補 助 額	11,838,730
合 計	23,244,987

支 出	
給 料 手 当	7,070,746
水 道 光 熱 費	5,315,387
租 税 公 課	5,151,100
そ の 他	5,707,754
合 計	23,244,987

Donald McDonald House Sendai

ドナルド・マクドナルド・ハウス せんだい



■ハウス情報

住 所：〒989-3126
宮城県仙台市青葉区落合4-5-3
電 話：022-391-1233
F A X：022-392-5535
延べ床面積：1,679.36m²
規 模：共有棟(平屋建て)、宿泊棟(2階建て)
ベッドルーム数：16室



■宮城県立こども病院 脳神経外科 白根 礼造

宮城県立こども病院脳神経外科にはもやもや病、頭蓋咽頭腫などの脳腫瘍そして二分脊椎のお子さん達が遠方より来られます。いずれも治療に長時間を要する疾患で家族の負担も並大抵ではありません。病気に立ち向かうご家族の物心両面からの支えがマクドナルドハウスとボランティアの方々です。「週末は外泊したいな～」「どこに行きたいの?」「マクドナルドハウス!」短い滞在でもこどもの心を掴んでしまうハウスの皆様に敬意を表する次第です。



■施設概要

2003年11月に誕生した国内第2号目の「せんだいハウス」は宮城県立こども病院のそばに建てられました。こども病院は160床あり、ハウスは主に東北地方からの患者家族が利用しています。

■2007年実績

利用家族数：778家族 総宿泊数：2,188泊
平均滞在日数：2.8日
ボランティア登録者数：210名



■収支報告 (単位：円)

収 入	
宿 泊 料	3,224,000
寄付金収入	885,217
会 費 収 入	594,000
そ の 他	217,294
財団補助額	13,598,670
合 計	18,519,181

支 出	
給料手当	6,704,529
水道光熱費	4,733,768
租 税 公 課	2,348,100
そ の 他	4,732,784
合 計	18,519,181

Donald McDonald House Kochi

ドナルド・マクドナルド・ハウス こうち



■ハウス情報

住 所：〒781-0111
高知県高知市池953-10
電 話：088-837-3650
F A X：088-837-3652
延べ床面積：1,180.72m²
規 模：平屋建て
ベッドルーム数：16室



■施設概要

2005年2月に誕生した国内第3号目の「こうちハウス」は同時期に開院した高知医療センターのそばに建てられました。高知医療センター内には母子医療センターがあり、ハウスには小児の患者家族が宿泊しています。

■2007年実績

利用家族数：335家族 総宿泊数：1,039泊
平均滞在日数：3.1日
ボランティア登録者数：61名

■高知医療センター

総合周産期母子医療センター長 吉川 清志

「こうちハウス」は高知医療センターの隣にあり、海も近く緑豊かな自然の中にあるリゾートホテルのような施設です。高知県は医療施設が県の中心部に集中しているため、東は室戸市から西は四万十市の方が利用され、大変喜ばれています。ハウスマネージャーやボランティアの方の優しい心に接し、ゆったりとした時間を過ごされ、リピーターも増えています。地方のハウスの先駆けとして、県民や患者さんのお役に立ちたいと皆で力を合わせて活動しています。



■収支報告 (単位：円)

収 入	
宿 泊 料	1,565,000
寄 付 金 収 入	554,723
会 費 収 入	81,000
そ の 他	112,426
財 団 補 助 額	10,531,282
合 計	12,844,431

支 出	
給 料 手 当	6,272,021
水 道 光 熱 費	2,673,084
租 税 公 課	122,800
そ の 他	3,776,526
合 計	12,844,431

Donald McDonald House Osaka-Suita

ドナルド・マクドナルド・ハウス おおさか・すいた



■ハウス情報

住 所：〒565-0875
大阪府吹田市青山台4-31-20
電 話：06-6836-6551
F A X：06-6831-7611
延べ床面積：1,292.88m²
規 模：共有棟(平屋建て)、宿泊棟(2階建て)
ベッドルーム数：18室



■国立循環器病センター 副看護部長 西本 京子

2007年5月“明美ちゃん基金”の適用を受け、イラクの患児2人が当センターで手術を受けました。この間、ご両親がハウスを利用され、アラビア語の勉強会や花火大会など異文化コミュニケーションが展開されました。当初、言葉や文化の違いに戸惑っておられました。帰国時には笑顔でセンターをあとにされました。先天性心疾患治療は長期に及ぶことが多く、地方から治療に来る家族にとってハウスの存在は大変意義があります。患児とその家族が安心して過ごせるハウス運営を今後も期待します。



■施設概要

2005年10月に誕生しました国内4号目の「おおさか・すいたハウス」は、国立循環器病センターの向かい側に建てられました。国立循環器病センターは小児病院ではありませんが、全国から心臓病の患児が入院または通院にきています。入院患者の家族の宿泊場所がなく困っていたことから病院および自治体から依頼を受け、ハウス建設が実現しました。

■2007年実績

利用家族数：481家族 総宿泊数：4,554泊
平均滞在日数：9.5日
ボランティア登録者数：167名



■収支報告 (単位：円)

収 入	
宿 泊 料	6,959,000
寄付金収入	768,469
会 費 収 入	432,000
そ の 他	1,107,357
吹田市補助金	3,982,580
財団補助額	7,846,551
合 計	21,095,957

支 出	
給料手当	6,784,932
水道光熱費	4,429,657
租 税 公 課	5,376,090
そ の 他	4,505,278
合 計	21,095,957

Donald McDonald House Tochigi

ドナルド・マクドナルド・ハウス とちぎ



■ハウス情報

住 所：〒329-0434
 栃木県下野市祇園2-36-3
 自治医科大学2号館3階
 電 話：0285-58-7551
 F A X：0285-44-4154
 延べ床面積：652.9m²
 ベッドルーム数：7室



■施設概要

2006年9月に誕生しました国内第5号目の「とちぎハウス」は自治医科大学とちぎ子ども医療センターの向かい側に開設されました。「とちぎハウス」は、自治医科大学の建物の一部を無償でお借りし、県の補助金を使って大学側に内装整備していただいたハウスです。

■2007年実績

利用家族数：279家族 総宿泊数：1,586泊
 平均滞在日数：5.7日
 ボランティア登録者数：181名



■自治医大とちぎ子ども医療センター

小児心臓血管外科 河田 政明

『ハート』

手術に立ち向かうわが子を思い、病気の子どもに付き添い、あるいは待機されるご家族のためにアイデアを持ち寄り、工夫をこらす、そして『ハート』と『笑顔』を添える。そんなスタッフやボランティアさんたちがいてくれるハウスは私たち医療チームの大切な『誇り』です。私たちもその活動に少しでも力になれるようにしたいものです。私たちは子どもたちの『心臓』をケアしています。ハウスは『ハート』のケアをしているんですね。



■収支報告 (単位：円)

収 入	
宿 泊 料	2,389,000
寄 付 金 収 入	708,241
会 費 収 入	312,000
そ の 他	300,608
運 営 費 負 担 金	3,000,000
財 団 補 助 額	3,998,057
合 計	10,707,906

支 出	
給 料 手 当	6,271,671
水 道 光 熱 費	1,953,075
租 税 公 課	20,700
そ の 他	2,462,460
合 計	10,707,906

Message from the Family

ご家族からのメッセージ



親子ともに大病をし、体力に不安があったわたしたちにとって、ハウスを利用できたことは大変幸運なことでした。元気に保育園に通う玄市朗の笑顔を見るたびに感謝しています。

碓 玄市朗くん 6歳 岡山県
(おおさか・すいたハウス)



病院までの130kmの距離は、家族にとって精神的にも大きな負担となります。ハウスのおかげで治療もすすみ、この春小学校に入学しました。

安倍 百香ちゃん 6歳 岩手県(せんだいハウス)



病名も明らかではない闘病で、精神的にも体力的にも疲れてしまう時でも、温かな笑顔で迎えてくれるハウスのスタッフとお布団に大変感謝しています。

宮内 くれはちゃん 2歳 千葉県(せたがやハウス)





現在では、毎日公園に行って元気に遊んでいます。温かい気持ちで接してくれたハウスにとっても感謝しています。これからは、私たち家族も支援をしていきたいと思います。

森井 百合香ちゃん 4歳 東京都(とちぎハウス)



「何もできなくても傍にいてあげたい」という家族の気持ちを応援してくれるハウスに感謝しています。同じ境遇の親御さんとの出会いも支えになりました。

岩崎 蓮くん 10歳 山梨県(せたがやハウス)



「もやもや病」という難病のため、仙台で治療となりました。入院中は、自分たちのことでいっぱいでしたが、皆様に助けていただき感謝の気持ちでいっぱいです。

山口 裕子ちゃん 15歳 鹿児島県(せんだいハウス)

それまでハウスのことなど全く知らずにいましたが、入院中も安らぐことができました。もっと多くの人たちに知っていただき、子どもの笑顔で満ちた社会にしたいと願っています。

長谷川 哲平くん 2歳 千葉県(とちぎハウス)



Volunteer Activity

ボランティア普及活動

栃木にて講演会

4月23日に栃木県石橋町きらら館にて、そして6月10日には宇都宮青年会館コンセーレにて講演会を実施いたしました。どちらも参加者は地域で活躍しているボランティアリーダーの方々。「医療をサポートする社会の力」というタイトルでドナルド・マクドナルド・ハウスの理念やボランティア活動を紹介いたしました。「ハウスのボランティアは介護ではな

く、病気の子どもとその家族が生活できる環境づくりのサポートを行っている新しいボランティア文化です。」という長瀬事務局長の講演を皆さん真剣に聞いてくださいました。



青葉台中学校の生徒がボランティア活動に参加

7月30日横浜市立青葉台中学校の社会福祉委員会の生徒さん10名がボランティアを経験することを目的に、「せたがやハウス」を訪問されました。

ボランティア活動に参加するだけでなく、ハウスとは何か、歴史、どのように運営しているかなども学びました。

ボランティア体験後、感想を聞くと・・・

- 今まで募金活動など表にでるボランティア活動には参加したが、陰ながらの活動は初めてだった。陰ながら家族を支える大切さを知った。
- 家でやっていることをして役立つならばもっとやってみたいと思った。
- 大変だけど楽しかった。

後日、学校では文化発表会が開催され、展示部門のポスターの中に生徒さんたちがハウスについてまとめて発表し、他の生徒さんたちにハウスの活動を紹介していただきました。



堀切小学校にて授業

2月2日葛飾区立堀切小学校の1年生2クラスを対象にハウスのことを学ぶ授業を行いドナルドも参加してくれました。ハウスについて勉強し、自分達ができるボランティア活動を考えるという内容でした。授業後、生徒さん達はハウスに必要な洗剤やタオル、文房具などの日用品をたくさん集めてハウスに贈ってくださいました。



広瀬高校のボランティア活動

「せんだいハウス」の隣にある宮城県立広瀬高校に通う奉仕活動部の皆さんは定期的にハウスのボランティア活動に参加しています。多いときは50名がハウスに来て、広い庭の草むしりや、たくさんある窓の清掃を行ってくれます。真夏の草むしりは、日差しが強いにもかかわらず、ジャージ姿で元気のいい高校生

は、友達と話しながらも手は動かし、あっという間にハウスの雑草をきれいにしてくださいました。

また、ボランティア活動中に会った病気のこども達のために、早く元気になってほしいという思いから千羽鶴を折ってくれました。「みんなで休み時間を利用して作りました。」と笑顔で寄贈してくださいました。



企業ボランティア

「せんだいハウス」には、ダイワハウス、岡村製作所、東北電気保安協会の3企業の従業員の方々が、毎年ボランティア活動に参加しています。それぞれに参加メンバーや活動内容に特色があります。岡村製作所では社員が家族とともに参加、こども達も一緒にお掃除を手伝っています。また活動している様子を東北・北海道地区の社内報に載せてハウスの認知度アップにも協力しています。ダイワハウスの皆さんは男性が多いのでハウスの外回りを中心に草取りや落ち葉拾いなどを行っています。東北電気保安協会は青年部の若手が参加するので、手が届きにくい天井の蛍光灯や空調フィルターなどの掃除をお願いしています。3企業ともチームワークがとっても良く、スムーズに連携を取りながら活動しています。「みんなが達成感で爽やかな気持ちになったことは、帰りの電車の中の会話で実感できました。」というメッセージも届いています。

Grant & International Exchange Program

助成事業および国際交流、国内外研修派遣事業

ボランティア活動費助成事業

条件：難病・重病の子どもを有する家族のための宿泊施設を支援しているボランティア団体または個人

助成先団体	助成金額
旭川ファミリーハウス	200,000円
とちぎ骨髄バンクを広める会・サポートハウス小山	200,000円
にいがたファミリーハウスやすらぎ支援の会	200,000円
ファミリーハウス岡山運営委員会	200,000円
ファミリールームからんこえ	200,000円
NPOぶどうのいえ	200,000円
よこはまファミリーハウス	200,000円
NPOラ・ファミリエ	200,000円
助成総額	1,600,000円

国際交流、国内外研修派遣事業

条件：難病・重病の子どもを有する家族のための宿泊施設を支援しているボランティア団体または個人

助成先	助成金額
中舘聡子氏	636,000円
吉岡明美氏	1,000,000円

中舘聡子：世界のハウスを訪問し、利用者やボランティアへの取材

吉岡明美：「難病の子どもを持つ家族の宿泊施設」に関する医療提供者の意識調査



Topics 2007

財団活動トピックス2007

宮城県知事、「せんだいハウス」視察

2月5日、村井嘉浩宮城県知事が「せんだいハウス」を訪問されました。

3年経ってもきれいに保たれているハウスを見て、ハウスの活動に賛同し活動をされているボランティア

の方に感心されていました。ハウスツアーの際に、ご家族がどのようにハウス内で過ごされているかを説明すると、深くうなずかれ、最後は「これからもよろしくお願いします。」とボランティアの皆さんに挨拶をされて帰られました。気さくに声をかけてくださった知事の様子にボランティアの皆さんも感激の様子でした。



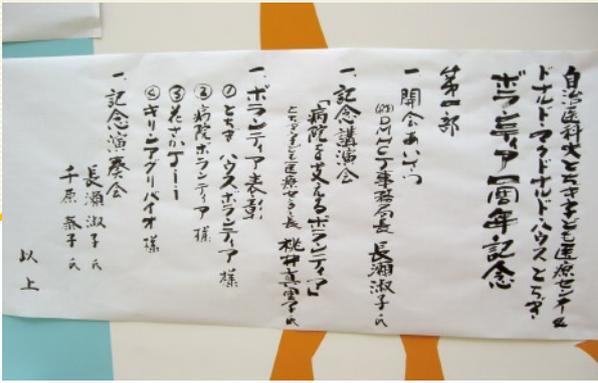
深堀プロ、2度目の「せんだいハウス」訪問

「JCBクラシック2007」参戦で宮城県入りしたゴルファーの深堀圭一郎プロが5月29日(火)に「せんだいハウス」を訪問してくださいました。おととしに続き2度目の訪問となりました。

2年前の訪問の際、ハウスの庭に植樹をしていただき、大きく成長した木を見て「毎日水遣りや手入れをしてくださって、ありがとうございます。」とボランティアの皆さんに声をかけていました。

ご自身も2007年3月に長女が誕生し、さらにハウスの必要性や活動に共鳴していただけたようで、今回は子ども達が楽しめるようにと、プレイルームに置く大きなぬいぐるみをプレゼントしてくださいました。常にハウスのことを考え、応援して下さる深堀プロをハウスも応援しています。





「とちぎハウス」1周年記念

国内5号目の「とちぎハウス」そして自治医科大学とちぎ子ども医療センターが1周年を迎えました。

9月22日、活動いただいているハウスおよび病院ボランティアの方、病院関係者をご招待し、1周年記念講演会と演奏会を行いました。

子ども医療センターの桃井センター長に「病院を支えるボランティア活動とは?」という題目で講演をしていただきました。患者家族に対し「あなたの辛い思いは分かっていますよ。」と医療従事者ではなくボランティアの方が感じることで、患者家族はホッと気持ち安らぎ、温かい心に触れることができるのお

話があり、病院を支えているドナルド・マクドナルド・ハウスそして病院ボランティアに感謝しますとお礼の言葉を述べられました。

演奏会は普段あまり聴くことのできないお琴とバイオリンのデュオでした。ドナルド・マクドナルド・ハウス財団の事務局長でもあり演奏家としても活動している長瀬淑子氏と室内楽コンサートで活躍されている千原泰子氏が全6曲を演奏し、最後は「涙そうそう」をボランティア合唱隊と共に歌いました。和楽器と洋楽器がこんなに合うなんて…と皆さん感激されていました。



木下浩美さんによるチャリティーコンサート

オルガニストである木下浩美さんが友人に声をかけ、ハウスのロゴのように手と手を取り合ってチャリティーコンサートを開催しました。当日は音楽関係者、元気な子どもたち、さらにニューヨークから駆けつけたピアニストたちが集まって、木下さんと共に音楽を通じて、ハウスの重要性を伝えるとても楽しいコンサートになりました。

木下さんの願いは「病気の子どもたちが元気になり、ハウスを訪れて思い出が語れるようになること。そのために手のひらサイズの力をみんなでつなぎ合わせたい」。このコンサート会場からまた新しい支援の輪が広がっていきました。



チャリティーパーティー

11月1日、日頃よりハウスをサポートいただいている方々 280名をご招待し、チャリティーパーティーを開催いたしました。企業の方はもちろん、サポート団体や医療関係者、行政など各界の方に参加していただきました。今回は初めての試みとしてご支援いただいているゴールドスポンサー 2社そしてシルバースポンサー 12社を表彰させていただきました。

最後には、実際に会場には来ることはできませんでしたが、支援企業の皆様に一番感謝を申し上げたいとハウスを利用されたご家族からのメッセージを紹介いたしました。「ハウ



スがあったから今の自分がいて、子どもの看病にも専念できました。ありがとうございます。」というご家族の言葉に涙されている方もいらっしゃいました。

また、木下音感楽院のかわいい子どもたちが、すてきな歌声を聴かせてくださり参加者から大きな拍手があがりました。



FM FUJIにて紹介

上記のチャリティーパーティーにて司会をしてくださった竹井志織さんがハウスの活動に賛同し、自身が担当しているFM FUJIの番組「SUPER TODAY FUJI」にて、ハウスの紹介をしてくださいました。まずはハウスを知るといふことで、実際にハウスを訪問して取材をしていただき、目を見たことをラジオにて伝えていただきました。このようにして支援の輪が少しずつ広がっていくのだと実感しました。





さとう宗幸さんチャリティーコンサート

10月6日、『せんだいハウス支援 さとう宗幸チャリティーコンサート』が行われました。

コンサートの前にはハウスを訪問し、活動しているボランティアの皆さんを激励していただきました。

さとうさんのお子さんも小さいときに2度の大きな手術を行い、奥様は病院でつきっきりで看病されていたそうです。「こんなところがあったら家族は看病に専念できるなあ」とおっしゃっていました。

チャリティーコンサートは宮城県立子ども病院の協力により病院内のホールで行われました。ヒット曲「青葉城恋歌」を始め、「夕焼け」などみんなが知っている曲なども披露していただき、トークを交えた温かいコ

ンサートとなり、地域の方、ハウスや病院で活動されているボランティアなど多くの方が参加してくださいました。



日本工学院専門学校とのコラボレーション



日本工学院専門学校グラフィックデザイン科1年生の皆さんがハウスの告知ポスター制作、CG・Webデザイン科と情報学科の皆さんがチャリティーゴルフのwebサイト作りに取り組んでくださいました。生徒のみなさんは、実際にハウスを訪問したり、チャリティーゴルフ会場まで来て取材をしたり一生懸命取り組んでくださいました。

ハウスを訪問して沸いたイメージをポスターにし、13のグループがそれぞれ個性豊かな作品の発表をしてくださいました。その中から1つの作品を選び、ハウス告知ポスターとして活用させていただきました。

またチャリティーゴルフサイトも完成し、下記のURLにて当日の様子をご覧くださいことができます。

<http://www.dmhc-golf.jp>

「せんだいハウス」リフレッシュ工事 「せたがやハウス」増室

「せたがやハウス」は稼働率が高く、希望しても利用できないご家族が多くいらっしゃいます。そこで18室のベッドルームを21室に増室する工事を行いました。また「せんだいハウス」も新しい看板を取り付け、腐敗していた材質を交換するなどのリフレッシュ工事



を行いました。

このような工事が行えたのも、多くの企業や個人の方からのご寄付が集まったおかげです。皆様のご協力でご家族が快適に過ごすことができました。ご協力ありがとうございました。



布川敏和さん、かおりさん夫妻が「せたがやハウス」訪問

10月16日、布川敏和さん、かおりさん夫妻が「せたがやハウス」を訪問されました。

布川夫妻の次女・花音ちゃんは「頭蓋庭奇形腫」という難病を持って生まれ、2000日に及ぶ闘病生活を送られました。4回の大手術と長年の病院通い、入院生活など辛い経験もされたそうです。

ハウスを見学された布川夫妻は家族が休むことの重要性を話してくださいました。闘病中かおりさんは気持ちが押しつぶされそうになり精神的にとても大変だったそうです。「私たちは病院から歩けるところに住んでいたからまだ良かったけど、病院から遠くに住んでいる人には絶対に必要なものですね。」と話してくださいました。

またボランティアがパッチワークでベッドカバーを作っている様子を見て「こういう手作りの明るい色のものが置いてあるだけで気持ちが変わってくるのよ

ね。病室が白い壁で無機質だったからかわいい包装紙を貼ったり、明るい色の布団を子どもにかけてまずは気持ちから元気にしなきゃと思いました。」と経験を語ってくださいました。





すい話が聞けた」「ハウスを実際に訪問できてよかった」などの声がありました。

なお11月17日に行われました仙台会場では絵本の読み聞かせ実演をアナウンサーの山根基世さんに担当していただきました。

子育て支援イベント

11月10日「せたがやハウス」にて「子どもの『食』と『コミュニケーション』を考えると集い」を開催いたしました。子どもにどのような食事を与え、どのようにコミュニケーションをとるかなどで悩んでいるお母さんを対象に、管理栄養士の牧野直子先生に親の料理から取り分けて作る幼児食、アナウンサーの宮本隆治さんには絵本の読み聞かせの実演、そしてハウスの見学ツアーを実施いたしました。

参加された方からは「楽しみながらとても実践しや



阪神タイガースの激励

11月21日、阪神タイガースで活躍する鳥谷内野手と狩野捕手が「おおさか・すいたハウス」を訪問してくださいました。もし阪神の選手がハウスを訪問して下さったら、入院している子どもたちは勇気づけられるだろうな、という思いからハウスが阪神球団に申し出をしたところ「病気の子どもたちのためなら」と喜んで今回の企画を引き受けてくださいました。

今回訪問して下さったのが鳥谷選手と狩野選手。お二人とも小さいお子さんがいらっしゃる、病気の子どもを応援するハウスの趣旨に賛同してくださいました。

両選手は、ハウスに滞在している子どもたちとキャッチ



「熱帯JAZZ楽団」チャリティーオークション

12月2日・3日の2日間、カルロス菅野さん率いる「熱帯JAZZ楽団・冬の会」が六本木「STB139 スイートベイジル」にて開催されました。「熱帯JAZZ楽団」は今年結成12年目となる有名なバンドで、当日は楽しい音楽とトークで客席も大いに盛り上がりました。

「熱帯JAZZ楽団」は毎年ライブの中でメンバー持ちよりによるチャリティーオークションを行っており、当日集まったお金を福祉団体や災害にあわれた方に寄付されています。

今年はチャリティーオークションで集まった金額をドナルド・マクドナルド・ハウス財団に寄付していただけることになり総額198,610円ものご寄付をいただきました。

今回ご寄付いただきました「熱帯JAZZ楽団」のメンバーの皆様、カルロス菅野さんに心より感謝申し上げます。



ボールをしながら交流を深めました。狩野選手は明日手術を受ける池田侑介くん（7歳）を相手にキャッチボール。「手術頑張るね。」と声をかけてくださいました。

また鳥谷選手は「とてもきれいな施設でびっくりしました。今日キャッチボールをした子どもがもっと元気になって、また一緒にキャッチボールをしたいです。」と話してくださいました。

今回の両選手の訪問で、滞在している子どもたちやご家族はもち

ろん、活動しているボランティアの方もお二人からたくさんのお元気をもらいました。





第9回ドナルド マクドナルド ハウス チャリティーゴルフ

毎年恒例のチャリティーゴルフが12月17日に神奈川県戸塚カントリー倶楽部にて行われました。今年も多くの方にご参加いただき、1000万円以上の寄付が集まりました。

チャリティーゴルフは各国の財団でも開催されていますが、今年はロシアとの交流ということで、ロシアで開催されたチャリティーゴルフの優勝チームをゲストに迎えました。さらに日本の優勝チームの賞品は2008年にロシアにて開催されるチャリティーゴルフへの参加資格でした。

会場ではプロゴルファーの皆様のご協力によるチャリティーオークションも行われ、プレイ後のパーティーも盛り上がりました。



住友信託銀行のサポート

住友信託銀行はさまざまなかたちでハウスを支援してくださっています。

千里中央支店、渋谷支店、青葉台支店、仙台支店では、店内に「ハウス告知コーナー」を設けて多くの方に告知していただき、各支店のお客様へと支援の輪が広がっていきました。千里中央支店からは、来店されたお客様が待ち時間に折ってくださった千羽鶴が「おおさかすいたハウス」に寄贈されました。お客様の折った鶴を従業員の方が一羽ずつ繋げ、「早く元気にな～れ」との願いの込められた鶴です。また青葉台支店のお客様からは、ティッシュ等の寄贈品が「せたがやハウス」に届けられ、ハウスを利用されているご家族に使用していただいています。





イラクからの利用者

戦火にあえぐイラクで、先天性心臓病で苦しんでいたサジャドくん(5歳)、アリアちゃん(2歳)が日本で手術することになったため、5月からおおさか・すいたハウスを利用しました。日本での入院期間は3カ月。この間、家族はハウスに滞在しながら子どもたちの看病をしました。

言葉の隔たりに苦慮したボランティアの方の考案でアラビア語のレッスン教室をハウス内で行ったり、逆にイラクの方に日本語を教えたり、互いの国の料理を作って交換したりなどの交流を図り、サジャドくんとアリアちゃんの両親はハウスで過ごしました。

手術も無事成功し、元気になったサジャド君とアリアちゃんのイラクへの帰国日が決まりました。その前日に日本での思い出を少しでも持ち帰っていただこうと、ボランティアの皆さんと共に、日本万国博覧会記念機構の協力のもと、万博公園で楽しいひとときを過ごしました。猛暑にも関わらず大はしゃぎする子どもたち、水鉄砲で子どものように楽しむお父さんたち、退院直後とは思えないくらいに元気いっぱいサジャド君とアリアちゃん、その光景を嬉しそうな眼差しで見守るお母さんたちも、つかの間の日本での一日を満喫したようです。



素敵なクリスマスプレゼント

お菓子のおうちがせんだいハウスに届きました。

このお菓子でできたおうちは、11月に仙台で開催されました子育てイベント「子育て応援団すこやか2007」に会場した子どもたちによって作られたものです。

宮城県仙台市にある明成高等学校調理科の生徒たちは、日ごろより地域の皆さんと連携して進める食育活動を実施しています。そして今回、宮城県主催で開催されたイベントで「お菓子のおうち」を沢山の子どもたちに作ってもらいました。

その「お菓子のおうち」がなぜハウスに？



11月にハウスが実施したイベントを通じて、ハウスの存在を知った明成高校の先生と生徒たちの発案です。

『千羽鶴ではないけれど「お菓子のおうち」を1,000人の子どもたちの小さな手で作ったので、ぜひハ

ウスにクリスマスまで展示してもらいたい!』との希望から実現したものです。

ハウスに滞在している家族は「お菓子のおうち」と一緒に並んで写真を撮ったり、入院している子どもに見せたいとビデオで撮影したりとクリスマスの雰囲気を楽しんでいました。



イベントでの募金活動

2007年はさまざまなイベント会場にて募金活動を行いました。ハウスの活動に賛同いただいている谷村有美さんそしてピアニストの国府弘子さん。お二人がコンサートを行った会場に募金箱を設置しハウスの告知を行いました。両会場あわせて390,663円の募金が集まりました。また横浜みなとみらいホールにもご協力いただき、同ホールで開催された3つのコンサートで募金活動、また9月以降のコンサート来場者にハウスのチラシを配布していただきました。



Others

いろいろなサポート

日本マクドナルド株式会社のご支援

マクドナルド社は、毎年11月に「世界子どもの日」を通じてチャリティーキャンペーンを実施し、さらにマクドナルド店舗で販売されたハッピーセット1つにつき1円がドナルド・マクドナルド・ハウス財団に年間を通じて寄付されています。2007年はハッピー



セットの販売個数が史上初1億個を突破し、多額のご支援をいただきました。

DELL株式会社

各ハウスで使用するパソコン10台をDELL株式会社に寄贈していただきました。せたがやハウスで行った贈呈式には代表取締役社長であるジム・メリット氏がかけつけてくださいました。



ハウスを初めて訪問したジム・メリット氏は、何もかも整っていて素晴らしいと感激の様子でした。

メスキュード医療安全基金

医療現場における医療安全対策や、医療廃棄物の安全な取扱いの推進を行っているメスキュード医療安全基金が営業収益の中から原資を積み立て、毎年、数件の団体や事業に支援しています。第5回の今年は6団体に寄付され、その中の一団体に当財団が選ばれました。その贈呈式が厚生労働大臣室で行われ、同基金の理事長である高島成光氏から当財団の開原理事長に寄付金が贈呈されました。

コカ・コーラボトラー社のご支援

マクドナルドの本社内および店舗のクルールーム（従業員休憩室）にはコカ・コーラ社の自動販売機が設置されています。2005年よりこの自動販売機のドリンクお買い上げ1本につき1円がボトラー社13社の協力により、当財団へ寄付されています。2007年は総額3,316,466円のご寄付をいただきました。



ご協力いただいているボトラー社

- みちのくコカ・コーラボトリング株式会社
- 仙台コカ・コーラボトリング株式会社
- 利根コカ・コーラボトリング株式会社
- 三国コカ・コーラボトリング株式会社
- 東京コカ・コーラボトリング株式会社
- コカ・コーラセントラルジャパン株式会社
- 北陸コカ・コーラボトリング株式会社
- 三笠コカ・コーラボトリング株式会社
- 近畿コカ・コーラボトリング株式会社
- 四国コカ・コーラボトリング株式会社
- コカ・コーラウエストジャパン株式会社
- 南九州コカ・コーラボトリング株式会社
- 沖縄コカ・コーラボトリング株式会社

Message from Supporters

応援メッセージ



プロゴルファー 田中秀道

こんにちは、田中秀道です。

僕は、年に1回行われる「Donald・MacDonaldハウス チャリティゴルフ」に第1回から参加させていただいています。回を重ねるごとにチャリティーの重要性、ハウスの大切さが伝わってきます。それは、アメリカやヨーロッパでは、ハウスがたくさん存在するからです。日本でもチャリティーの必要性をもっと広め、子どもや親が安心して治療に専念できるような環境作りの手伝いできればいいと思っています。また、僕自身ハウスで過ごしている子どもたちに夢や希望、勇気を与えられるようにプロゴルファーとして頑張ります。

田中秀道

タレント 布川敏和、布川かおり



私たちは世界子どもの日ハートフル・マクドナルドチャリティーキャンペーンの親善大使チャリティーパートナーとして参加させて頂きました。思った以上に皆様から心のもった募金が沢山集まり本当に嬉しかったです。大切な募金で病気と闘っているご家族に笑顔と愛を送ることができると思います。

今回は息子・隼汰も参加してくれて、中学生・高校生の若者にもこの様な取り組みを行っている事が解っていただけたのではと思っています。

まだまだ、Donald・MacDonald・ハウスを必要な方が沢山いらっしゃいます。これからも多くの人々や企業の協力が必要です。皆様よろしくお祈りします。今後も布川ファミリー一同、病気と闘っているご家族の力になれるよう応援していきたいと思っております。

布川かおり





ことばの杜 アナウンサー 山根基世

「ことばの杜」は、元NHKアナウンサーが中心になって、子どもたちの「ことば」を育てる活動をするために作った組織です。言葉で自分の気持ちを伝えることができないばかりに、痛ましい事件を引き起こす子どもが目立ちます。

私たちの目的は、子どもたちに「幸せな人生を生きていける力」を身につけてもらうこと。そのためには「ことばの力」が欠かせないと思っています。

ドナルド・マクドナルド・ハウスの活動を知った時、私たちと同じ思いをすでに実現している人々に深い共感を覚えました。私も仙台のハウスで絵本を読みましたが、今後も一緒に活動できればと願っています。

山根基世



ことばの杜 アナウンサー 宮本隆治

せたがやハウス。各部屋のドアには可愛い動物のイラストが大きく描かれています。しかも、21室それぞれ動物は違っていました。これなら親も子ども部屋を間違えることはありません。11月、せたがやハウスを利用している家族を中心に、管理栄養士による「幼児食づくり実演講座」と、私たちNHKアナ退職者による「言葉でつなぐ親子のコミュニケーション（絵本の読み聞かせ教室）」が開催されました。口に入れる食べ物と口から出る言葉、どちらも大切です。今後もこういった活動を通じて支援の輪が広がっていけばいいですね。

宮本隆治



たはらクリニック 院長 田原卓浩

子どもたちの輝きを演出する「成長と発達」は、“からだ”だけでなく“こころ”にも大切な支えです。自分たちの未来と可能性へのチャレンジのために、長期間にわたる入院治療をふるさとから離れた病院で受けざるを得なくなった子どもたちにとって家族と一緒に過ごす時間は“最高の処方箋”。家族にとっても、そばについてあげたいという気持ちがつのってきます。この思いを少ない負担でかなえてくれるドナルド・マクドナルド・ハウスは家族にとって子どもたちと家族を送り出す立場にいるわれわれ小児科医にとっても“こころの支え”です。

田原卓浩

Financial Report

決算報告

正味財産増減計算書

平成19年1月1日から平成19年12月31日まで (単位: 円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
1 基本財産運用収入	2,310,000	0	2,310,000
2 ハウス事業収入	29,516,100	21,891,164	7,624,936
宿泊料収入	22,843,000	20,538,800	2,304,200
運営補助金収入	4,828,987	0	4,828,987
その他の収入	1,844,113	1,352,364	491,749
3 寄付金収入	230,659,629	232,995,187	△ 2,335,558
寄付金収入 (マクドナルド)	104,047,100	115,887,250	△ 11,840,150
寄付金収入 (サプライヤー)	28,230,243	28,891,440	△ 661,197
寄付金収入 (一般)	23,814,886	20,105,965	3,708,921
募金収入	74,567,400	68,110,532	6,456,868
3 会費収入	2,755,000	0	2,755,000
経常収益計	265,240,729	254,886,351	10,354,378
(2) 経常費用			
1 事業費	165,845,549	92,101,402	73,744,147
(1) ハウス事業運営費	162,609,509	88,641,402	73,968,107
給料手当	33,103,899	29,154,606	3,949,293
光熱水料費	19,104,971	17,537,939	1,567,032
租税公課	9,036,210	14,275,630	△ 5,239,420
減価償却費	45,971,109	0	45,971,109
その他の経費	21,184,802	23,600,938	△ 2,416,136
事業関連経費	30,987,118	0	30,987,118
ボランティア普及費	3,221,400	4,072,289	△ 850,889
(2) ボランティア事業	3,236,040	3,460,000	△ 223,960
ボランティア助成費	1,600,000	1,460,000	140,000
ボランティア研修費	1,636,040	2,000,000	△ 363,960
2 管理費	42,036,472	58,784,764	△ 16,748,292
給料手当	32,678,781	35,525,537	△ 2,846,756
旅費交通費	2,381,703	6,757,289	△ 4,375,586
会議費	630,041	464,594	165,447
通信運搬費	239,975	2,991,600	△ 2,751,625
消耗品費	287,745	7,221,526	△ 6,933,781
諸謝金	925,625	963,500	△ 37,875
雑費	4,892,602	4,860,718	31,884
経常費用計	207,882,021	150,886,166	56,995,855
当期経常増減額	57,358,708	104,000,185	△ 46,641,477
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
配当収入	450,000	592,213	△ 142,213
その他収入	216,471	1,307	215,164
経常外収益計	666,471	593,520	72,951
(2) 経常外費用			
有価証券評価損	45,000	0	45,000
過年度減価償却費	110,950,804	0	110,950,804
経常外費用計	110,995,804	0	110,995,804
当期経常外増減額	△ 110,329,333	593,520	△ 110,922,853
当期一般正味財産増減額	△ 52,970,625	104,593,705	△ 157,564,330
一般正味財産期首残高	2,558,813,721	2,454,220,016	104,593,705
一般正味財産期末残高	2,505,843,096	2,558,813,721	△ 52,970,625
正味財産期末残高	2,505,843,096	2,558,813,721	△ 52,970,625

貸借対照表

平成19年12月31日現在 (単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1 流動資産			
現金	1,559,839	1,542,138	17,701
普通預金	258,214,248	396,094,304	△ 137,880,056
郵便貯金	17,400,741	2,957,663	14,443,078
未収金	0	0	0
流動資産合計	277,174,828	400,594,105	△ 123,419,277
2 固定資産			
基本財産			
基本財産定期預金	300,000,000	300,000,000	0
基本財産土地	222,680,900	222,680,900	0
基本財産合計	522,680,900	522,680,900	0
その他の固定資産			
建物	1,444,677,151	1,546,167,867	△ 101,490,716
構築物	10,710,063	14,002,130	△ 3,292,067
什器備品	19,143,893	43,411,240	△ 24,267,347
ソフトウェア	3,467,051	3,831,039	△ 363,988
電話加入権	76,440	76,440	0
建設仮勘定	0	0	0
定期預金	200,000,000	0	200,000,000
投資有価証券	28,005,000	28,050,000	△ 45,000
その他の固定資産合計	1,706,079,598	1,635,538,716	70,540,882
固定資産合計	2,228,760,498	2,158,219,616	70,540,882
資産合計	2,505,935,326	2,558,813,721	△ 52,878,395
II 負債の部			
1 流動負債			
預り金	92,230	0	92,230
流動負債合計	92,230	0	92,230
2 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	92,230	0	92,230
III 正味財産の部			
1 指定正味財産	0	0	
2 一般正味財産	2,505,843,096	2,558,813,721	△ 52,970,625
正味財産合計	2,505,843,096	2,558,813,721	△ 52,970,625
負債及び正味財産合計	2,505,935,326	2,558,813,721	△ 52,878,395

財産目録

平成19年12月31日現在 (単位:円)

科 目	金 額
I 資産の部	
1 流動資産	
現金預金	
現金	1,559,839
普通預金	8,322,697
みずほ銀行新宿新都心支店	4,391,493
みずほ銀行成城支店	289,852
杜の都信用金庫宮城町支店	2,085,773
四国銀行高須支店	819,720
りそな銀行千里北支店	1,394,213
足利銀行	240,910,500
三井住友銀行麹町支店	17,400,741
郵便貯金	
未 収 金	0
定期預金利息	
流動資産合計	277,174,828
2 固定資産	
(1) 基本財産	
定期預金	300,000,000
あおぞら銀行本店	
土 地	222,680,900
東京都世田谷区大蔵	
基本財産合計	522,680,900
(2) その他の固定資産	
建 物	1,444,677,151
宿泊施設	
構 築 物	10,710,063
ハウス看板等	
什器備品	19,143,893
家財及び事務機器等	
ソフトウェア	3,467,051
会計ソフト及びホームページ	
電話加入権	76,440
施設設置電話	
建設仮勘定	0
定期預金	200,000,000
あおぞら銀行本店	
投資有価証券	28,005,000
マクドナルド株式	
その他の固定資産合計	1,706,079,598
固定資産合計	2,228,760,498
資 産 合 計	2,505,935,326
II 負債の部	
1 流動負債	
預り金	92,230
源泉所得税	
流動負債合計	92,230
負債合計	92,230
正味財産	2,505,843,096

財務諸表に対する注記

1 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法について
 その他の有価証券… 決算日の市場価格等に基づく時価法
 (売却原価は総平均法により算定) によっている。
- (2) 固定資産の減価償却について
 建物、構築物、什器備品及びソフトウェア…定額法によっている。
- (3) 消費税等の会計処理
 消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2 基本財産の増減額及びその残高

(単位：円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
土地	222,680,900	0	0	222,680,900
定期預金	300,000,000	0	0	300,000,000
合計	522,680,900	0	0	522,680,900

3 本財産の財源等の内訳

(単位：円)

科目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に対応 する額)
基本財産				
土地	222,680,900	(222,680,900)	0	0
定期預金	300,000,000	(300,000,000)	0	0
合計	522,680,900	(522,680,900)	0	0

4 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

(単位：円)

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物	1,581,188,784	136,511,633	1,444,677,151
構築物	14,828,722	4,118,659	10,710,063
什器備品	51,052,505	31,908,612	19,143,893
ソフトウェア	4,660,325	1,193,274	3,467,051
合計	1,651,730,336	173,732,178	1,477,998,158

5 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

(単位：円)

名称ならびに交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
運営補助金(自治医大)	0	3,000,000	3,000,000	0
運営補助金(RMHCグローバル)	0	1,828,987	1,828,987	0
合計	0	4,828,987	4,828,987	0

監査報告書

財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・
 チャリティーズ・ジャパン
 理事長 開眼 成光 敏

平成20年2月26日

財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・
 チャリティーズ・ジャパン

監事 吉野賢治 

監事 二村隆幸 

財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンに
 係る平成19年1月1日から平成19年12月31日までの会計年度
 (第9期)の事業報告及び決算に関する計算書類を監査した結果、いずれ
 も適法正確であり、かつ、正味財産の状況、財団の運用状況も正しく処理
 されているものと認めます。

以上

Board of Directors, Councilors and Selection Members

役員・評議員・選考委員の紹介

理事長	開原 成允	国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 大学院長	
専務理事	廣瀬 修	日本ゾーディアック株式会社 代表取締役社長	
常務理事	島田 浩三	常勤	
理事	矢内 廣	ぴあ株式会社 代表取締役社長	
	大野 晃	森永乳業株式会社 代表取締役会長	
	村上 陽一郎	国際基督教大学 人文科教授	
	有村 治子	参議院議員	
	舟橋 正輝	フジパングループ本社株式会社 代表取締役会長	
	鶉橋 誠一	スターゼン株式会社 代表取締役社長	
	魚谷 雅彦	日本コカ・コーラ株式会社 代表取締役会長	
	寺田 耕治	AIU保険会社 日本における代表者	
	好本 一郎	日本マクドナルド株式会社 上席執行役員 コーポレート・アドミニストレーション	
	監事	二村 隆章	公認会計士
吉野 賢治		公認会計士	
評議員	西村 由美子	オーガストネットワークスインク 代表	
	残間 里江子	プロデューサー	
	矢島 尚	株式会社プラップジャパン 取締役会長	
	ジェフリー・マクニール	Market Makers Inc. 代表取締役社長	
	宮田 佳代子	テレビキャスター	
	後藤 亘	株式会社エフエム東京 代表取締役会長	
	岩崎 優	日本マクドナルド株式会社 コーポレートリレーション本部 CSR部長	
	下平 篤雄	日本マクドナルド株式会社 取締役 上席執行役員	
	柳澤 正義	社会福祉法人恩賜財団母子愛育会 日本子ども家庭総合研究所 所長	
	大熊 由紀子	国際医療福祉大学大学院 教授	
	南 砂	読売新聞東京本社 編集委員	
	佐多 保彦	東機貿グループ各社 代表取締役社長	
	選考委員	柳澤 正義	国立成育医療センター 名誉総長
		堀口 雅子	虎の門病院産婦人科 元医長
興梠 寛		社会福祉法人 世田谷ボランティア協会 理事長	
秋山 洋		国立小児病院 名誉院長	
入村 瑠美子		国際医療福祉大学グループ 看護教育顧問 保健学部看護学科 講師	



Our Supporters

サポーター紹介

日本コカ・コーラ株式会社 代表取締役社長 ダニエル・H・セイヤー
Daniel H. Sayre Representative Director & President, Coca-Cola (Japan) Co., Ltd.



ザ コカ・コーラ カンパニーは、世界各国でドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズの活動を支援しており、日本でも同様に同財団の活動を支援させていただけることは私どもの誇りであり心から光栄に存じております。私どもは、これからも財団の活動支援を通じて、地域社会に根ざした企業市民として「いつでも。どこでも。だれにでも。」さわやかさとうるおいを提供してまいりたいと願っております。

We are proud of and it is our great honor to support the Donald McDonald House Charities Japan, in the same way that we support our valued partner, Donald McDonald House Charities, globally. Through this support, we will continue to pursue our mission through refresh people "anywhere, anytime, everyday," throughout the country, as a corporate citizen rooted in local communities nationwide.



日本マクドナルド株式会社 代表取締役会長兼社長兼 CEO 原田泳幸
Eikoh Harada President, Chairman and CEO, McDonald's Company (Japan), Ltd.



子どもの幸せは私たちすべての願いです。その子どもたちが重い病気にかかったとしたら本当に心が痛みます。小児科医の不足や医療の地域格差といった問題を抱える今日、自宅から遠く離れた病院への入院を余儀なくされる場合も多く、こんな時のご家族の心痛やご苦労は言葉では表せないでしょう。このような状況の中で、ドナルド・マクドナルド・ハウスの重要性は益々高くなっています。日本マクドナルドは第1号ハウスの立ち上げから積極的にその活動をサポートしてまいりましたが、これからも社員ともども一層の支援をしてまいりたいと考えています。

どうか多くの企業・個人の方々がこの支援の輪に加わってくださるようよろしくお願いいたします。

We all wish children to be happy. We would be really heartbroken if any of children get seriously ill.

Some of children suffering serious illness are forced to stay in hospitals away from their home due to shortage of paediatricians and regional gaps in medical service, and distress and troubles that their families suffer due to these problems should be beyond description.

In such circumstances, the roles of Donald McDonald Houses are increasingly important. McDonald's Japan has been supporting activities of the Houses since the establishment of the first House in Japan and intends to unite efforts of all employees to provide the Houses with continuous assistance. And we truly hope as many companies and individuals will join us in our efforts to support Donald McDonald Houses.



■ Gold Sponsors

日本コカ・コーラ株式会社
日本マクドナルド株式会社

■ Silver Sponsors

アイ・ティー・エス・ジャパン株式会社
株式会社イナ・ペーカー
ECOLAB
スターゼン株式会社
デルマール株式会社
凸版印刷株式会社
Havi Global Solutions
株式会社富士エコー
フジパングループ本社株式会社
メスキュード医療安全基金
森永乳業株式会社
ヤマザキナビスコ株式会社
ライオン株式会社
Rose Packing Company.INC

■ Bronze Sponsors (企業)

株式会社アートコーヒー
株式会社 A D E K A
株式会社アルゴ
植田製油株式会社
A C レモン株式会社
株式会社お世話や
株式会社 S W キッチンテクノ
オザックス株式会社
北里不動産販売株式会社
株式会社キャニオン・マインド
近畿コカ・コーラボトリング株式会社
株式会社コーニッシュ
コカ・コーラウエストジャパン株式会社
コカ・コーラセントラルジャパン株式会社
埼玉養蜂株式会社
佐賀県農業共同組合富士町統括支所
佐久浅間農業共同組合

Sun Valley (Thai Land), Ltd.

讃陽食品工業株式会社
株式会社シモジマ
すくすく.COM
株式会社鈴木商店
第一電装部品株式会社
大同印刷株式会社
タニコー株式会社
DELL株式会社
株式会社電通
東京コカ・コーラボトリング株式会社
利根コカ・コーラボトリング株式会社
トモプロ株式会社
株式会社中西製作所
西山ステンレスケミカル株式会社
日本給食設備株式会社
日本ゾーディアック株式会社
日本ファイリン株式会社
熱帯 JAZZ 楽団
有限会社バイオトゥデイ
株式会社 BS 日本
株式会社ファンドクリエーション
福島工業株式会社
ブルーマチックジャパン株式会社
ブルドックソース株式会社
株式会社マルマサフード
まんてん堂こどもクリニック
三國コカ・コーラ株式会社
明治安田生命保険相互会社高知支社
メロディアン株式会社
U C C 上島珈琲株式会社
理研ビタミン株式会社
株式会社 Leivax

■ Bronze Sponsors (個人)

赤津英二郎 椎名 博信
阿部 逸子 嶋村 恭子
阿部由美恵 鈴木 勝己
井原 規公 瀬戸口明穂
上野 富生 谷口 敏也
大内 温子 玉井 宏明
岡崎 瑩賢 中田 早苗
岡林 圭子 奈須野義清
岡本 幸一 西田 省三
小根山智也 橋口 裕次
小野 一之 原田 泳幸
小野 幸世 原田キミコ
貝田 睦仁 原本 俊則
海津 太郎 深堀圭一郎
加藤 達夫 福岡 恵子
北田 善保 北東 哲也
木下 浩美 松嶋 一夫
桑原 大輝 若山 健彦
小松原雅美 渡辺 逸治
坂本 澄子 渡辺 寛之
佐多 保彦

(五十音順)

皆さまからのご支援により多くの病気の子どもとその家族に笑顔を届けることができました。ご支援いただいたすべての方に心より感謝いたします。





財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・
チャリティーズ・ジャパン

財団法人 ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン

〒163-1339 東京都新宿区西新宿6-5-1 新宿アイランドタワー39階

TEL:03-6911-6068 FAX:03-6911-6198

<http://www.dmhcj.or.jp>